ふかまちのまと

第一二三号　〇三年一〇月一日
発行元　深町町内会連合会
連絡所　☎六三―三八八二

町内会連合会活動報告

◇体育委員会（八月三十日）（九月六日）

十月十二日、三原運動公園で開催される、市民体育大会へ参加するため、選手選考を行ないました。昨年の名簿を参考にして予定者の了解を得て、選手を確定しました。

昨年のBクラスから陥落して本年はCクラスの出場です。

予算総額は三十万円、内二十万円は三原市の補助金です。

◇役員会（九月十三日）

敬老会を十月二六日（日）、深小・幼の学習発表会の日に実施と決定しました。

午前中に学習発表会を観賞し、終了後、敬老会のセレモニーと会食を行なうことになりました。

本年、七五才以上の招待者は一二八名です。

本年は、五藤市長自身が来賓出席の予定です。

◇歩道整備

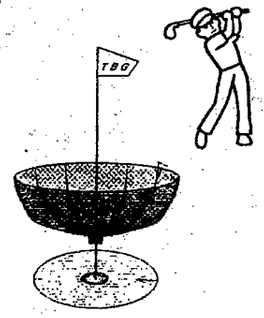
元の郵便局付近の歩道未整備部分の解消のため、執行部が地権者等に協力を依頼しました。

（事務局）▲▲

巡回スポーツ

ターゲット・バード・ゴルフ

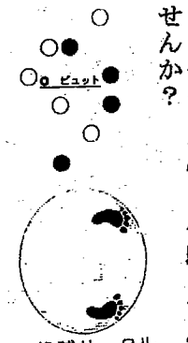
狭い場所でもゴルフ感覚が楽しめる、ゴルフボールに羽根がついた！「ターゲット・バード・ゴルフ」を体験してみませんか？



ペタンク

（鉄球投げを競うスポーツ）

初心者でも親しみやすく楽しめるスポーツ、フランス生まれの「ペタンク」を体験してみませんか？



投球サークル

とき　十月十九日（日）九時三〇分～
ところ　深小学校グラウンド（雨天時は同校体育館）
主催　三原市体育指導委員協議会
後援　三原市教育委員会
▲▲

子ども会だより

子ども会会長　河原光浩

《防犯大会》（ソフト）
深　六―四　三原
深　一―五　中之町
《県大予選》（ソフト）
深　〇―三　小坂
《市子連大会》
（キック）
深　六　―十四　宇和島
深　十三―八　小泉
深　十二―二八　羽和泉
（ソフト）
深　一―五　小坂
深　八―一　坂井原中野
深　十―二　沼田
深　八―二　羽和泉
三位に入賞しました　▲▲

深小だより

残暑の厳しかった二週間がうそのように、めっきり秋らしくなってきました。

深小学校では、十月には学習発表会、十一月には地域参観日、十二月には教育研究会開催と行事が目白押しです。

社会的にも道徳性の欠如が問題になっている今日、深小学校では、今年度、子どもたちに豊かな心を育てるために『道徳教育の充実』を研究のテーマとして、がんばっています。

絵本・紙芝居・写真・新聞記事・体験活動・パソコン・・・を授業に取り入れ、子どもたちが瞳を輝かせる道徳の授業をめざして、今、全職員で模索中です。

そして、十一月四日の地域参観日と十二月二日の教育研究会には、全学年が、道徳の授業を行います。

深小学校での道徳教育が深化するように、ご家庭・地域のみなさまの力をお借りしながら、忙しい二学期がまさに『実りの秋』になるようにと願っています。みなさまのご協力をよろしくお願いします。

空き巣　ご用心

九月一日昼間、深町内で空き巣による現金等の盗難事件が発生しました。

農繁期、行楽期を迎え、ぐれぐれも用心しましょう。

○泥棒は侵入しやすい家を狙っています。外出するときは、少しの時間でも鍵をかけましょう。

○長期間留守にするときは、近所に一声かけておきましょう。

○家の中に多額の現金や貴重品を置かないようにしましょう。

万一被害に遭われたら

現場はなるべくそのままにして、すぐに警察へ連絡してください。

連絡先は

緊急の場合　一一〇番
三原警察署　六七・〇一一〇
中之町駐在所　六四・八一四一
（中之町警察官駐在所）▲▲

女性会だより

深町女性会　林　一恵

ジャム作り体験学習に参加して

イチゴやオレンジマーマレードなど、家庭でジャム作りを楽しむ人が増えています。

女性会では、プロのジャム作りを見学し、また、体験学習をしました。添加物もなく、清潔な工場で作られているのを見学し、あらためて「食」の安全に企業が細心の注意をはらっておられることもよく理解できました。

原料となる果実は、現地の方と契約栽培をしていること、日本のジャムの歴史は、織田信長の時代に始まるとか、様々な学習も出来ました。

五人～二〇人位で参加出来るそうです。皆さんも参加してみてください。

一、日時　九月一日（月）
二、場所　アヲハタ（株）ジャム工場［竹原市忠海中町］
三、参加者　十九名
四、体験ジャム作り　ブルーベリージャム
五、参加費用　五〇〇円
▲▲

謹んでお悔やみ申し上げます

林チサエ様　八一才　田屋講
九月十三日

深町各種団体十月行事予定

◆町内会連合会
▼市民体育大会　十二日
▼敬老会　二六日

◆小学校・幼稚園
▼サンライズ大池訪問（四～六年生）　一日
▼社会見学　二日
▼英語活動　七日
▼幼稚園遠足　九日
▼サンライズ大池訪問（一～四年生）　十五日
▼ライオン号来校　十七日
▼第一次発表会　二一日
▼英語活動　二二日
▼学習発表会　二六日
▼テーマタイム　三一日

◆女性会
▼懇親会　上旬　第三水曜
中旬　第一月曜
下旬　第二日曜

展望席

先日、警察の駐在所を訪れたとき、「いまやらねばいつできる　わしがやらねばたれがやる」と書いた色紙が壁に掛けてあるのが目に入りました。

警察はこのような心構えでその職務にあたっているのだなあ・・と、改めて再認識しました。この言葉は、近代日本彫刻界の最高峰といわれた平櫛田中（ひらぐしでんちゅう）さんが残したものですが、同氏が一〇七年の生涯を現役で貫いたその姿に、高齢化社会が進む現在、大きな夢と感動を覚えます。

平櫛田中さんの生涯は幼少から苦難の連続だったようですが、この言葉のように、彫刻にかけるその情熱、意気込み、気力の充実が老いてもなお益々芸術に磨きをかけ、長生きをして、生涯現役で活躍できたものと思われます。

ところで、日本一長生きした鹿児島県徳之島の泉重千代さんは百二十歳の誕生日に、聞く者も聞く者ですが、報道陣から「おじいちゃんの好みのタイプの女性は？」との問いに、「甘えん坊ですから、年上の人がいいなあ」と答えたといいます。自分が一番年上なのに、どこに年上の女性がいるのでしょうか？　こんなジョークが言えて、呑気で楽天的に生きることも、また長生きの秘訣かもしれません。

凡人の私には、平櫛田中さんの言葉は、かえって精神的に負担になるような気がします。「いまやらねばいつかできる　わしがやらねばたれかやる」と、肩の力を抜いて気を楽にして生きた方がいいのかも？

深小時代の想い出 (10)

元深小学校長　坂井吉徳

「進水式」の巻

昭和三三年か三四年かはっきりしないのですが、日立向島造船所から、進水式の招待状が送られてきました。

校長先生から「めったにないことだから、見学させますか」という話が持ち上がりました。

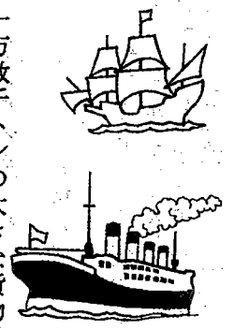
私はすぐにその話にとびつきましたが、費用が高くつくし、交通も不便だということに気がつきました。

そこで、渡船往復運賃十円だけで行く計画を立てました。

六年生二十数名が自転車でいくのです。

美ノ郷から栗原の峠は、今は楽に越えられますが、当時は道が狭くしかも急な上り坂で、自転車を押して登らねばなりませんでした。

日曜日の十時に進水式があるので、朝早く、校長先生と先頭に二人の付添の先生と私の四人で学校を出発しました。



一万数千トンの大きな貨物船をどのようにして進水させるのか、私自身とても興味津津で見ていました。

テープカットの後、薬玉が割れ船は、船台を滑るように進水して行きました。

このまま進水が進むと、尾道側の岸壁にぶちあたると思った瞬間、大きなイカリを船台の横を滑らせて、ブレーキ役をさせていました。

海に入ると、四隻のタグボートがぴたりと二隻ずつ左右に分かれて船体にひっついたと思ったら、尾道側の二隻は船尾を全力で押して、必死で今の尾道大橋の方に向けていました。

向島側の二隻のタグボートは船首をしっかり尾道側に押していました。

そして、数分後には、どこに当ることもなく、船は尾道水道の真中に浮かんでいました。

すばらしい進水式を胸に納めて、急いで帰校の準備をし、向島を後にしました。

栗原の峠を越える頃はもう日暮に近く、学校に到着した時は日はもう山の裏に入っていましたが、校長先生も一緒なので叱られない進水式ですみました。

こどもがありますが、もう一つ想い出す須波の造船所で、最後の木造船の進水式がありました。

クラスの皆んなに、バスで見学に来ないかと招待しました。

その時は十名ぐらい希望者がいたのですが、実際にやって来たのは二・三名だったと思います。

テープカットの後、指揮者の命令で、一せいに船底を支えている木のやぐらを打ち壊し、最後に船台の車輪止めをしでいる三角形のクサビを一せいに打ち落とすと、船は滑るように進水して行きました。

一瞬でも遅れると、船の下敷きになる難しい技術です。

この進水式を最後に、木造船は造られなくなり、今ではもう誰も見ることもできません。

▲▲

和水館中・高等学校 吹奏楽部「第五回ステップアップコンサート」の御案内

吹奏楽部保護者　成末朋子

第四十四回全日本吹奏楽コンクール中国大会が倉敷市民文化会館大ホールにおいて八月二十五日に開催されました。

如水館高等学校吹奏楽部は、高等学校の部、A部門に出場し銅賞を受賞しました。

これは一九九七年の吹奏楽部創部以来最高の名誉です。

この部員達により演奏されます「第五回ステップアップコンサート」に是非御来場ください。

干川神社　秋の大祭

干川神社総代　西本一二三

秋冷の候、野山も色づき始め過ごしやすい季節となりました。

干川神社の秋の大祭についてお知らせ致します。

今年はともしび劇団を招いて、歌と踊りと芝居でにぎやかな祭りを実施致しますので、町内の皆様の多数のお参りをお待ちしています。

日　時　十月十八日（土）
式典　十八時三十分～
子供太鼓踊　十九時～
芝居　十九時三十分～二一時

短歌・俳句・詩

☆　春　夏　秋　冬

中組　竹内博偶

集いたる二十三夜の宵楽し
老いも若きも笑顔生き生き
しなやかに舞いて若き日
偲ばせる手踊りの輪に
思いひとしお

鮮やかに太鼓踊りのバチ捌き
手振り足踏み掛子取りつつ

☆　中組　高崎壽郎

両あがり
待ってたように蝉しぐれ
蝶とんぼ優雅な舞を披露せり
ネアンデルタール人
巨大火星を見た思いは

☆　二十三夜

ごくらくとんぼ
むかしむかしの　そのむかし
（昔）（昔）
緑豊かなこの村に鎮座し
毎年　新しい人々を迎えながら
ひたすら安寧を願い
そして毎年　なじみ親しんだ
人々を送ってきた
お地蔵さんと阿弥陀さま
その慈愛に満ちたまなざしで
どれだけの人々を迎え　どれだけ
の人々を送ってきたのだろうか？
今年の二十三夜　縁あって新し
く迎えてもらったこの私
そのまなざしは　とてもやさしく
暖かだった
先祖があって　今日の私があるこ
とを思い起こさせてもらった二十
三夜
ご先祖さまに　感謝感謝

短歌、俳句、詩、川柳などお寄せください。

連絡先　紙谷
（六三―三八八一）

日時　十月二十七日（月）
開場　十七時三十分
開演　十八時
場所　三原リージョンプラザ文化ホール
入場料　無料
演奏内容
※第二十七回広島県高等学校総合文化祭吹奏楽部門の出場曲
※「第二十七回広島県アンサンブルコンテスト」（中国・全国大会予選）に向けてのアンサンブル発表
※お楽しみステージ（予定）

▲▲

随筆　お地蔵さん

中之町　河野　強

我が家の門柱を出た所の通り道の石垣の中に、石を四個くみ合わせて横穴を作り、その中にお地蔵様をお祀りしてある。

いわゆる穴蔵地蔵様である。

その昔、私の父が小さな子どもの頃、歯が悪くなり、うずき、もだえ苦しんだ。当時は、良い医者も居らず良い薬も買えず、毎日泣き苦しんだ。

その苦しむ姿をあまりにむごたらしく思ったお祖母さんが、わざわざ沖ノ島まで行って、歯痛にご利益のあるお地蔵様を勧請して帰り、お祀りした。

そして、朝な夕な般若心経を唱えて拝み、孫の歯の平癒を祈願してくれたお蔭で治った。百年も前のことだ。

このお地蔵様は歯いたで苦しみ、顎が落ちてしまわれた。爾来、多くの歯痛で苦しむ人をお助けになられたという顎無地蔵尊で、霊験あらたかなお地蔵様だそうだ。

医学の発達していなかった昔は、一番に、神様や仏様を一心に平癒をお祈りしたものである。我が家にとっても、日く因縁付きのお地蔵様である。

我々が子どもの頃、虫歯で「痛いよ・・痛いよ・・」と泣き出すと、母はすぐ仏壇へ線香を取りに行き、線香に火を付け、子どもを連れ一緒にお地蔵様へ参り「早く治してやって下さい」と拝んでくれた。すると、不思議と早く治ったのを思い出す。

今は、生家から一キロメートルも離れた地に現在の家を建て替えたが、家の横側の通り道の石垣に、昔と同じように石で穴蔵を作り、お地蔵様を持ち帰りお寺さんにお経をあげて貰い、お祀りしている。

そして、家族の者が皆、歯が丈夫で元気に過ごせるようにと、彼岸や盆お正月には、お供え物をし、線香を立てお参りしている。

特にお盆には、お地蔵様の前でオガラ（麻殻）を焚いて祭灯をあげてお祭りをし仏迎えをしていた。今はオガラも無くこれはやってないが、お花だけは絶やすことなく立てている。

先日、お地蔵さんの前の道路を舗装工事をしたが、工事に来られた方々がこの穴蔵お地蔵様をお祀りしてあるのに気付かれお賽銭をあげて帰られた。

今時珍しく奇特な人のおられるのに驚いた。

時代は変わったけれど、我が家の伝承は伝承として、いつまでも守り続けたいと、あらためて思っている。

▲▲